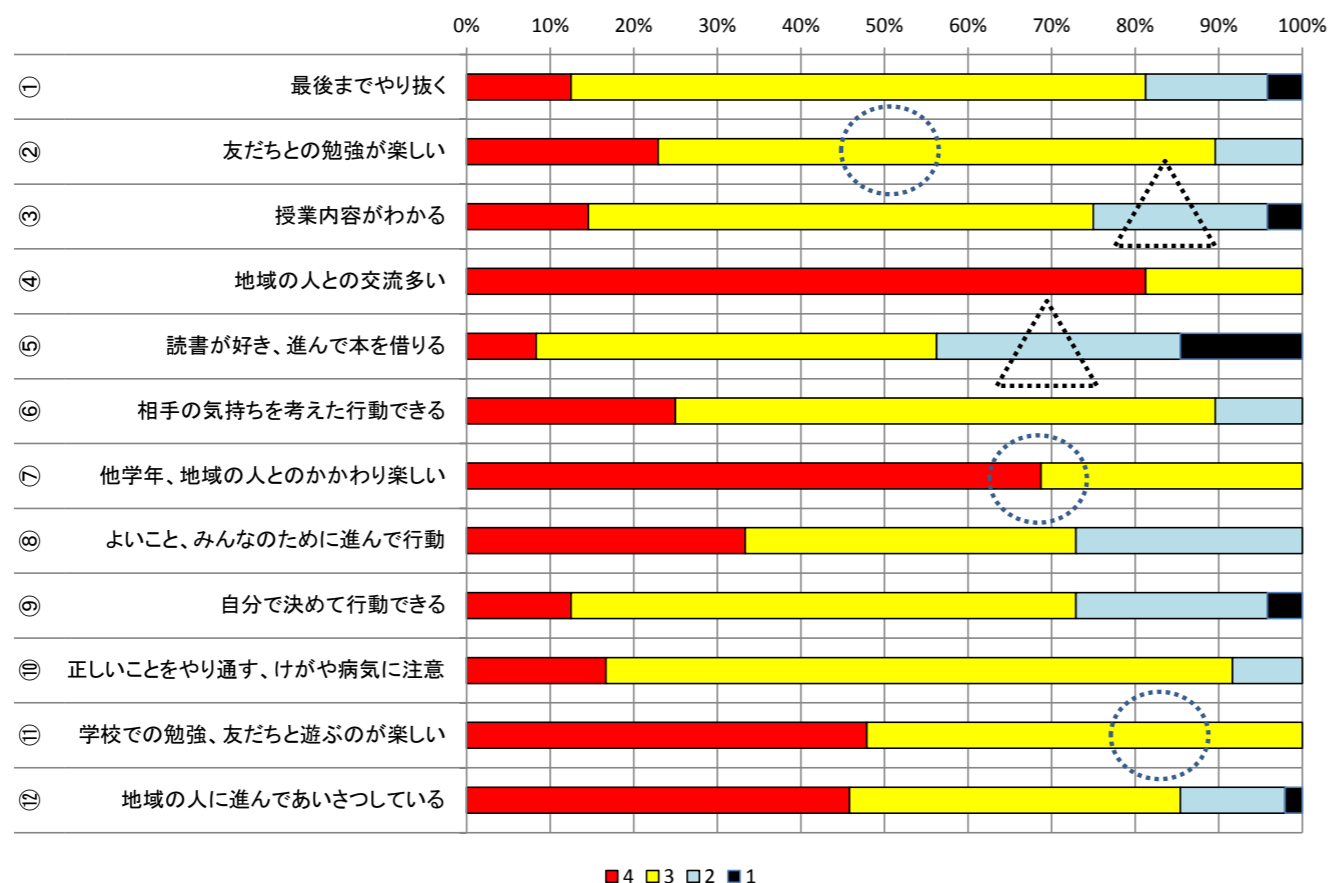
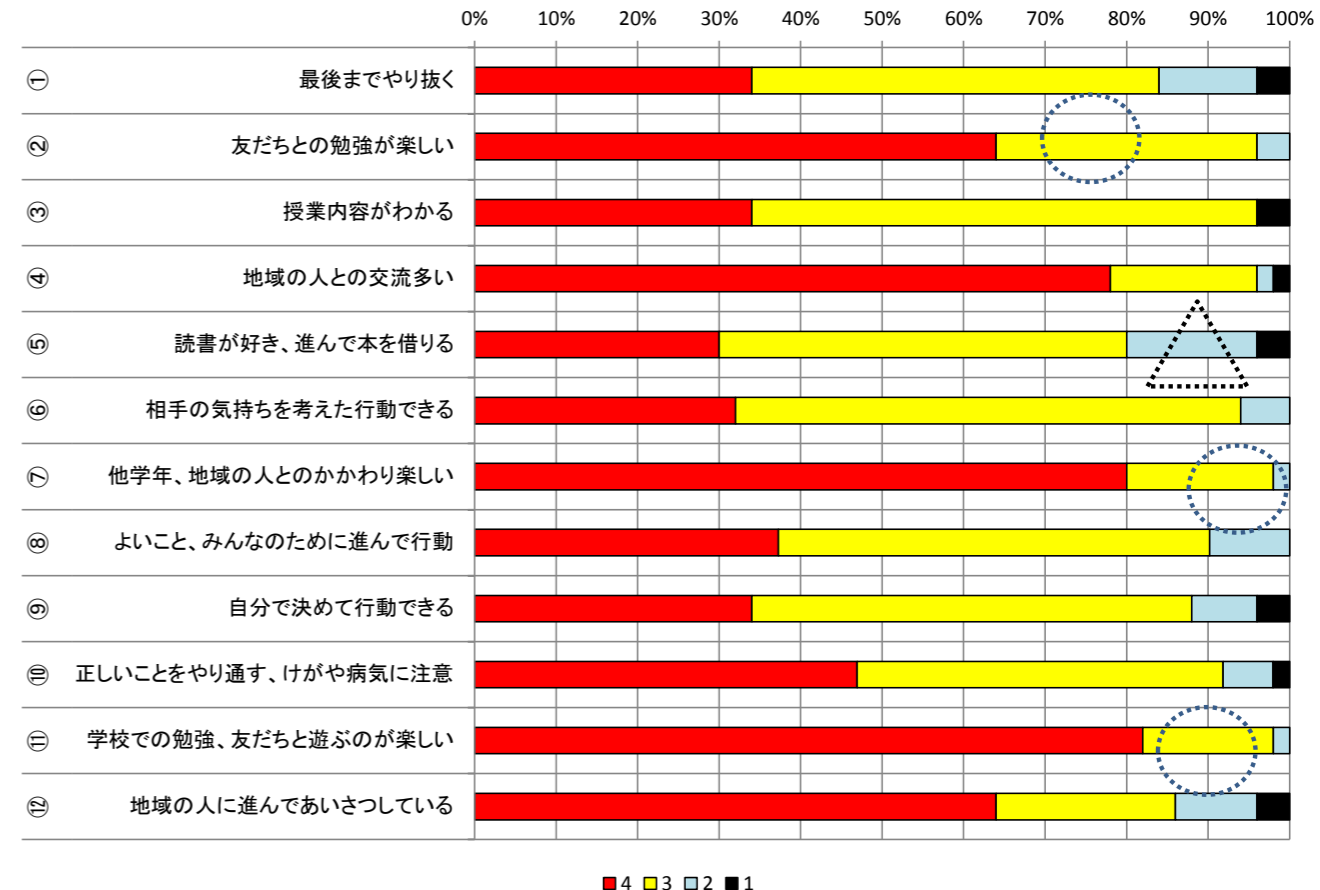


# 平成26年度 保護者・児童学校評価アンケート結果

## 保護者からの評価



## 児童の評価



### 保護者と児童の評価アンケート結果の考察

- 学校が楽しい、友だちとの勉強が楽しいと感じている児童と保護者の割合が同じように高い。
- 他学年や地域の人とのかかわりが多く、楽しいと感じている児童や保護者の割合が高い。
- 今年度、「やり抜く子」というめざす子ども像についての設問には、保護者も児童も同様の結果がでており、プラス評価を更に伸ばし、マイナス評価を改善する努力を積んでいく必要がある。

- ▲ 授業内容の理解に不安を感じている保護者が多少いるが、児童は授業内容がわかると感じている割合が高く、保護者と児童のギャップがある。
- ▲ 読書が好きで、進んで本をよく借りている、借りていると自己評価している児童の割合が高いが、保護者のその割合は低い。PTAと更に連携しての取り組みを通じて、学校と家庭の両面からの読書への意欲を育てていく必要がある。

- 学校や友だちと勉強することが楽しいと感じている児童や保護者の割合が高く、他学年や地域の方とのかかわりについても好意的にとらえており、学校の特色について理解を得ていると思われる。
- 授業内容の理解や読書について、保護者と児童の評価に大きな差が見られた。保護者に目に見える形で高評価されるように説明する必要がある。